

昭和の南海地震体験談

氏名:有田 良利(ありた よしとし) 「本人の希望により写真は掲載しておりません」

生年月日:昭和 14 年 8 月 7 日

地震を体験した場所:すさみ町

当時の家族状況:父、母、祖母二人

1) 地震発生時の状況

当時7歳、あまり記憶無いが、旅館をしていた一階の襖が、“パタンパタン”と面白いほど揺れて倒れたのを覚えている。

母が妊娠中であり、家の裏が堤防だったので、大丈夫だと、すぐ、逃げなかった。

2) 津波襲来時の状況

「津波来る！」という声を聴いて、駅の裏手にある寺が、家から一直線のところにあり、生まれて初めて父に背負われて避難。

妊娠中の母が、用水路にはまって“ビショビショ”になったことは覚えている。

3) 家族の行動・被害

家族全員、一緒に避難して無事。

4) 集落・周囲の被害

家の裏手の堤防の向こう、海側の家は、すべて流出、浸水。

自分の家は、隣近所 共に無事。

5) 地震・津波後の生活

普通に生活した。学校も、正月明けから普通に行ったと思う。

6) 次の災害への備え

地域で避難訓練、避難所整備、避難タワー作ってもらっている。

<写真は萬福寺境内にある津波の碑>

